

白木 茂（しらき・しげる）

1、プロフィール

児童文学者、翻訳家。児童文学の創作や欧米児童文学の翻訳家として活躍。日本児童文芸家協会の創立メンバーとして同協会の発展に寄与、児童文化功労者表彰を受けている。

<生没>

1910(明治 43)年2月1日 ~ 1977(昭和 52)年8月5日

<代表作>

『てんぐのめんの宇宙人』『原始少年ヤマヒコ』

翻訳『少年少女シートン動物記』

<青森との関わり>

東京市京橋区に生まれ、三戸郡向村(現南部町)に移る。向小学校に学ぶ。

2、作家解説

本名小森賢六郎。向小学校卒業後、麻布中学、明治中学を経て日本大学予科入学、病氣休学後、昭和9年日本大学英文科卒業、在学中より翻訳に従事した。

昭和 10 年1月、時事新報短編小説に応募、「地下室の住人」が入選、その後選者であった中山義秀に師事した。

戦前は W・H アレンの『アクイラの戦い』(昭和 14 年)やアントニー・ヘルマンフォッカー自伝『わが征空記』(昭和 17 年)などの訳書を出版しているが、戦後になるとスピリの『アルプスの少年』(昭和 23 年)をはじめとして、児童書の翻訳者として活躍するようになり、アンソニー・ホープ原作『ゼンダ城のとりこ』(「世界名作全集」第 72 巻)を昭和 29 年講談社から刊行して以後、60 年代 70 年代にかけて、あかね書房、岩崎書店、金の星社など児童出版社が企画した全集物のほとんどに翻訳者としてかかわった。

また、新しい傾向の児童文学や、SF、ノンフィクション等の翻訳、全集物の編集、企画の仕事もてがけた。主な著書にムカージ『ヒマラヤの伝書ばと』(昭和 32 年)『少年少女シートン動物記』(昭和 37 年)テヨング『運河と風車とスケートと』(昭和 40 年)ドクター・スース『ぞうのホートンたまごをかえす』(昭和 43 年)M・パチェット『宇宙人アダム・トロイ』(昭和 45 年)などがある。

一方、創作には『ジェットと機関車』『名犬と名馬』『原始少年ヤマヒコ』(昭和 34 年)『てんぐのめんの宇宙人』(昭和 44 年)などがある。評論として「英米文学に現れた児童観」「マーク・トウェーン小論」などがある。

日本児童文学学会理事、日本児童文芸家協会常任理事、児童図書日本センター理事、国際アンデルセン賞国内選考委員などを歴任、死後昭和 62 年に、日本児童文芸家協会より、第 29 回日本児童文化功労者として表彰された。

3、資料紹介

○『てんぐのめんの宇宙人』

図書

1977(昭和 52)年2月 10 日

250mm×190mm

青森と岩手の境目にある小さな町に住んでいるひろし君は、すわの平でベータ星人と会いました。ベータ星人は、てんぐのおめんをつけて町の仮装コンクールへと繰り出すのでした。「なかよしえどうわ」シリーズの一冊で、馬場のぼるが絵を担当している。